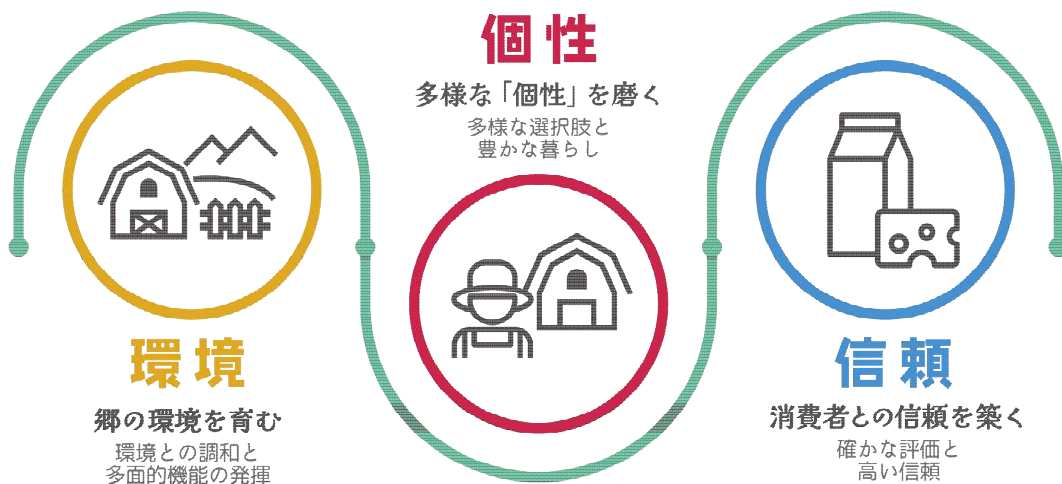
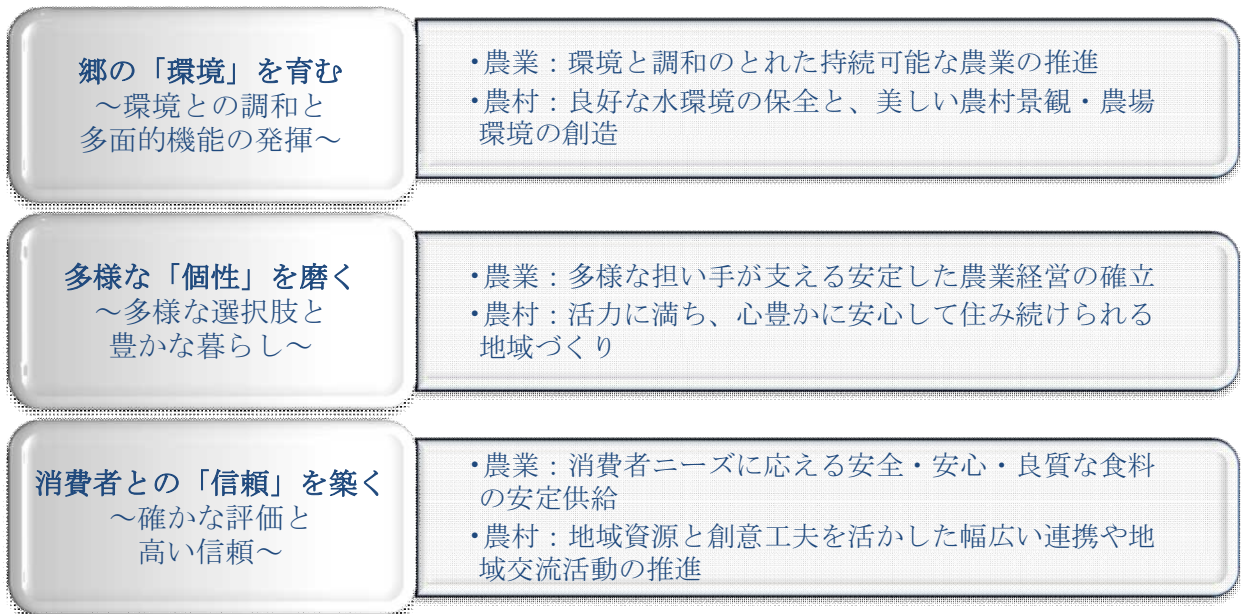


## 第4章 将来像の実現に向けた取組

### 1 取組の3つの柱

別海町の農業・農村の将来像の実現に向けて、生産者、関係機関・団体、行政が連携を強めるとともに、消費者の理解と協力を得ながら、「環境」「個性」「信頼」の3つを柱に取組を推進します。



## 2 (1) 郷の「環境」を育む ～ 環境との調和と多面的機能の発揮 ～



農業：環境と調和のとれた持続可能な農業の推進

農村：良好な水環境の保全と、美しい農村景観・農場環境の創造

### (1) 農業：環境と調和のとれた持続可能な農業の推進

食料システムを持続可能なものとするためには、食料供給が環境に負荷を与える側面にも着目し、農業者、食品事業者、消費者等の関係者・団体の理解と相互連携の下、温室効果ガスの排出削減や生物多様性の保全、地域資源の有効利用等に配慮した食料生産や、それら食料の流通・消費などを通じた、環境と調和のとれた食料システムの確立を推進する必要があります。

別海町の農業においては、一戸当たりの飼養頭数の増加に伴う経営規模の拡大が進展し、生産活動を通じた環境への負荷などが懸念されていますが、別海町はサケ・マスの増殖河川やラムサール条約登録湿地である風蓮湖など、世界的にも貴重な自然を有しているため、自然と共存できる農業を営むことが不可欠です。

そのため、別海町では、町、事業者及び農業団体が自らの責務を明らかにするとともに、別海町の豊かな自然環境を未来の世代に継承するため、良好な水環境を保全し、農業と漁業が将来にわたり共存共栄しうる社会を構築するための施策として「別海町畜産環境に関する条例」（平成26年4月1日施行）を制定しました。

別海町の農業の方向性は、豊富な土地資源を最大限に活用しながら草地と飼養頭数のバランスを保ち、土・草・牛の自然環境を基本として河川・湖沼など自然環境への負荷の低減を図るとともに、食料安定供給の役割を果たす「環境を育み持続可能な農業」を目指します。

また、草地と家畜のバランスがとれた酪農・畜産経営は、生産環境の改善などにつながり、食品の安全性確保や「大気・森・川・海を育む酪農郷」といった農業イメージの向上など、消費者ニーズに応える経営形態としても期待されています。

#### ① 「土」－「草」－「牛」の自然循環機能を基本とする持続的な農業の推進

自然と共存し将来にわたって持続可能な農業の確立に向けて、別海町の気象条件や自給飼料基盤である豊富な土地資源を最大限に活用し、採草地や放牧地などの用途も考慮しつつ、関係機関と連携した計画的な草地整備改良等により生産性を向上させながら、自然循環機能を基本として、環境への負荷低減を図った農業を推進します。

また、飼料生産や給与、家畜排せつ物処理等において省力的で低コストな飼養管理が可能となる集約放牧は、持続可能な酪農の発展に資する技術としても期待されています。さらに、放牧等による牧歌的な風景は、来訪者や町内外の消費者にとっても好印象であるため、観光

振興や地域ブランドづくりといった相乗的な経済効果が発揮される取組を推進します。

- ア 自給飼料を活用し酪農経営の安定を図るため、地域計画を核とした農地の集約・団地化を促進するとともに、地域に応じた植生改善やサイレージ用とうもろこしなどの栄養価の高い飼料生産、栽培管理技術の高度化の推進、コントラクターやIMRセンター等の飼料生産組織の活用などにより、土地基盤をフル活用した良質で低コストな自給飼料の生産・利用を推進します。
- イ 牧草の収量確保や収穫作業を効率化する起伏修正などの「草地整備」を着実に実施するほか、気候変動の影響緩和や、雑草を駆除・抑制するために新たな草種・品種を導入する「草地改良」、植生を維持・回復させるために農業者が自ら行う「草地更新」をそれぞれの目的に沿って適期に実施する取組を推進します。
- ウ 地域条件や飼養形態に応じた多様な放牧の推進と集約放牧や時間制限放牧などの放牧技術の導入を推進します。
- エ 堆肥等の有機物の施用などによる土づくりに努め、農業の自然循環機能を維持・増進させるとともに、化学肥料や化学合成農薬の適正使用を通じ、環境との調和に配慮した安全・安心、高品質な農産物の生産を進めるクリーン農業を推進します。
- オ 草地を小麦、そば等の畑地へ転換するなど、耕作放棄地や遊休農地を発生させない取組を推進します。

## ② 生産活動に由来する家畜排せつ物等の適正な処理・利用等による環境負荷低減

別海町では、1経営体当たりの飼養頭数の増加が進んだ結果、生産活動に伴って発生する家畜排せつ物による自然環境への負荷が懸念されています。

そのため、家畜排せつ物を自己経営農地で資源循環利用することを基本としながら、地域内での適正な処理と利用調整の仕組みを構築することにより、環境と調和した生産活動を推進します。

家畜排せつ物等処理施設については、地域の実情や将来計画等を十分勘案の上、飼養規模等に応じた施設を「国営環境保全型かんがい排水事業」等各種事業の活用により整備します。

また、「別海町畜産環境に関する条例」の基本理念に基づき、家畜排せつ物の適正管理・処理について、町・事業者及び農業団体が一体となった取組を実施します。

さらに、みどりの食料システム法に基づく農業者の認定、J-クレジット制度の活用、環境負荷低減の取組の「見える化」などを推進し、温室効果ガスの排出削減に努めます。

- ア 家畜排せつ物など、未利用資源の有効利用を促進し、地域農業の振興と環境保全の取組を推進します。

また、地域に存在する豊富なバイオマス資源など、再生可能なエネルギーの生産・

利用の拡大を促進します。

イ 家畜排せつ物の施用について、河川への影響に配慮した散布時期の選定、河川沿いや急傾斜地など家畜排せつ物の施用を控える区域の設定、散布基準など農村環境の保全に向けた環境負荷低減策を促進します。

ウ 家畜排せつ物処理・利用技術の開発などに向け、試験研究機関等と連携した研究・実証試験の実施について検討します。

エ カーボンニュートラルの実現に向けた温室効果ガスの排出削減の取組を推進します。

### ③ 適切な衛生管理と家畜の生理に適応した生産の推進

食品の安全・安心の確保という観点から、消費者の関心は生産物のみならず、生産する農場の「環境」や生産過程にも向けられています。

そのため、農場衛生管理手法（農場HACCP）や農業生産工程管理（GAP）の普及などの取組を推進していく必要があります。

また、近年、家畜伝染病の侵入や気候変動による家畜被害のリスクが増大しているほか、SDGsなどの国際動向を踏まえたアニマルウェルフェアへの対応も課題となっており、これらの課題に対応するため、生産環境・過程を重視した生産体制づくりを推進します。

ア 家畜の検査や監視の徹底、家畜伝染病の診断技術の向上等による防疫体制を強化し、的確かつ効率的な家畜衛生対策を推進します。

また、海外悪性伝染病の侵入防止に向け、国や道、関係機関とも連携しながら、農場に対して家畜伝染病に関する注意喚起を徹底するとともに、飼養衛生管理基準の遵守を基本とした農場段階での防疫の徹底など、発生に備えた防疫体制の強化に努めます。

イ 清潔な牛舎で健康な牛を飼養することは、消費者のニーズであるだけでなく、家畜の事故・疾病防止、増体・乳量増加といった生産性の向上や、農作業事故の防止、作業ロス時間の減少といった作業性の向上にもつながるため、生産環境整備に対する農業者の意欲喚起を促します。

ウ 農場衛生管理手法（農場HACCP）及び農業生産工程管理（GAP）の普及を促進します。

エ 放牧を導入するなど、過密な飼養を避け、家畜の生理に即してストレスを最小限に軽減する飼養管理を推進します。

オ 気候変動による被害の回避・軽減に向けて、扇風機や細霧装置等の暑熱対策の導入等を推進します。

町民の声（アンケート結果）

【農業環境・資源保全に関する今後の主な取組方向】

- ふん尿処理施設の整備 ●環境保全施設の整備
- 自然循環機能を利用した環境と調和のとれた酪農の推進
- ふん尿堆肥の需給・流通調整システムの確立 ●畜舎等洗浄排水の処理施設の普及
- 家畜排せつ物のバイオマスエネルギー利用など地域資源の高度利用の推進

## （２）農村：良好な水環境の保全と、美しい農村景観・農場環境の創造

農業は単に食料を生産するだけでなく、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、美しく安らぎを与える景観の形成といった多面的機能を発揮することにより、町民の生命と財産、豊かな暮らしを守る重要な役割を担っています。

別海町では豊かな自然環境の中で農業生産活動が発展し、「防風林や河畔林に囲まれた牧草地で牛がのんびりと草を食む」といった地域固有の美しい農村景観が形成されました。

一方で、生産活動は自然環境に負荷を与える側面を併せ持っているため、河川・湖沼・海などの水環境の保全が重要となってきます。こうした中、自然環境の保全に対する住民の意識が高まっており、農協・漁協による植林の実施など、水環境の保全に向けた様々な活動が展開されています。

また、雄大な自然と草草が織りなす美しい農村景観を、住む人にも魅力のある「大気・森・川・海を育む酪農郷」へと高め、次の世代に引き継いでいくためには、個々の農場が農村景観の形成要素であるという意識を持つとともに、地域ぐるみで景観づくりや農場の環境整備を進めることが重要です。

そのため、農村の環境保全・環境づくりへ向けた意識啓発や地域ぐるみの共同活動を推進し、農業が有する多面的機能の維持・増進を図ります。

### ① 次代へ引き継げる農村地域の豊かな水環境の保全

別海町の農村が本来有している「農地・森・河川・海の命をつなぎ、多様な生き物が生息できる水環境」を保全し、水と緑が豊かな農村づくりを進めるために、環境に配慮した農業・農村基盤整備、農村の環境保全・環境づくりを進める意識啓発、地域住民が連携した環境保全活動の取組を推進します。

また、農村環境の保全を通じて、水産業や林業、観光業といった別海町を支える他産業との連携を強め、ともに発展し、次の世代に多様な資源や可能性を継承できる農村を確立します。

- ア 合併浄化槽など、農村の生活排水処理施設の整備による公共水域の水質保全、パーラー排水をはじめとした畜舎排水や家畜排せつ物など、流出する河川や地下水などの汚染につながる汚濁物質を適正に処理できる施設管理を推進します。
- イ 土砂の流出を防ぐ緩衝林・河畔林の整備、水質浄化機能を有した排水路の敷設など、環境に配慮した農業・農村基盤整備と適切な管理を推進します。
- ウ 河川・湖沼の環境保全活動に取り組む地域住民組織づくりと、組織による地域活動を推進するとともに、環境や自然生態系の保全など、学校や地域における環境教育を推進します。

## ② 地域の誇りとなる美しい農村景観・農場環境づくりの推進

農業の営みが豊かな自然と調和した美しい農村地域「大気・森・川・海を育む酪農郷」を築くため、地域ぐるみの牧歌的な農村景観づくりを推進します。

また、生産者の目線に住民や来訪者の目線を加えた農場環境づくり、すなわち、生産者にとって安全な生産を実現する農場環境であるとともに、住民にとって快適な暮らしの空間であり、来訪者にとって魅力ある観光空間であるような農場環境の実現に向けた取組を推進します。

- ア 農地や水路など、地域資源の適切な保全管理を図るための地域共同活動や、地域の農業生産活動を継続するための取組や支援を通じて、多面的機能の発揮を促進します。
- イ 農場周辺やスラリー散布時期の市街地における臭気の低減に向けた取組を推進します。
- ウ 廃プラスチック・不要農機具処理、雑草処理、敷地内の整理整頓など、農場周辺の環境改善を促進します。
- エ 河畔林・防風林の維持や設置など、環境保全や農村景観に配慮した生産基盤の整備、花壇づくりや植樹による森づくりなど、住民参加型の身近な景観づくりを推進します。
- オ 「みち」をきっかけに、地域固有の沿道景観（放牧風景や自然景観）をはじめとした地域資源（食・文化・歴史など）の保全・改善の取組を進めることにより、美しい景観づくりや魅力ある観光空間づくりを図る取組を推進します。

町民の声（アンケート結果）

【環境保全に対する主な取組】

- 廃プラなど農業資材の適正な処理と廃棄
- 家畜ふん尿処理施設の適正管理と老朽化による流出事故防止
- 草地面積に対して適性な飼養密度での放牧
- 農薬や肥料などの使用減量による環境負荷軽減
- 牛舎排水浄化処理施設の設置による水質汚濁防止

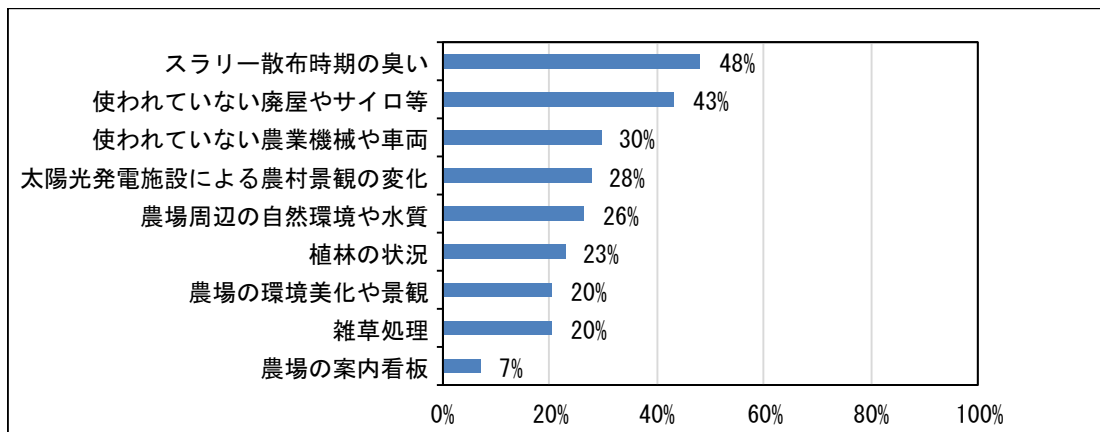
【農場周辺の環境・景観整備の主な取組】

- 不要な農業機械や車両
- 農場周辺の雑草
- 畜舎周辺（道のぬかるみや凹凸）
- 農場の案内看板
- 不要な廃屋やサイロ
- 農場の景観への配慮

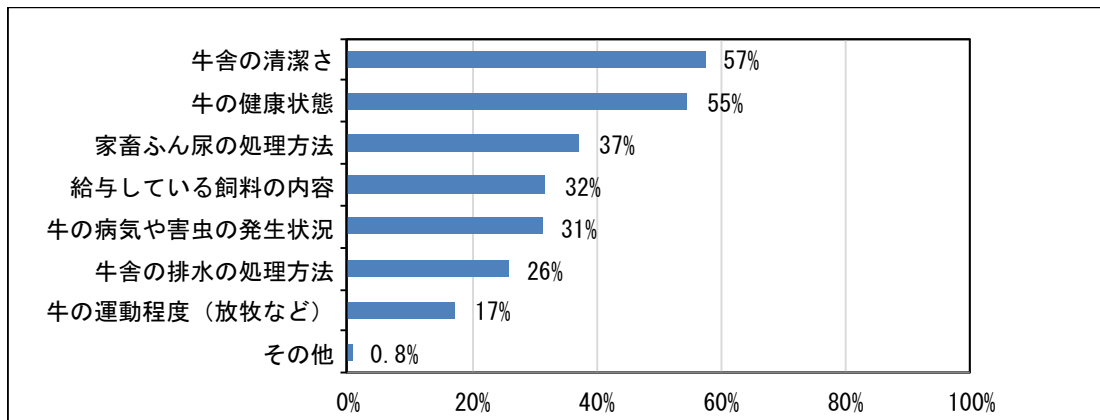
【農場の衛生管理に対する主な取組】

- 畜舎内の換気
- 害虫の発生
- 家畜ふん尿の処理
- 畜舎内の衛生管理
- 畜舎内の整理整頓
- 消毒槽の設置と管理
- 飼槽構造（コーティング等）

農場周辺の環境・景観について消費者の関心が高い事項（アンケート結果）



生産環境について消費者の関心が高い事項（アンケート結果）



## 2 (2) 多様な「個性」を磨く ～多様な選択肢と豊かな暮らし～



農業：多様な担い手が支える安定した農業経営の確立

農村：活力に満ち、心豊かに安心して住み続けられる地域づくり

### (1) 農業：多様な担い手が支える安定した農業経営の確立

令和2年の乳用牛飼養戸数は651戸でしたが、令和6年は586戸と5年間で65戸減少するなど減少傾向で推移しています。別海町の農業が、今後とも地域の基幹産業として持続的に発展していくためには、担い手の確保が重要となっています。

戦後の経済成長の中で経営規模の拡大一辺倒であった時代から、経済のグローバル化、消費者・実需者ニーズの多様化、国民の少子高齢化といった時代への変化に対し、別海町固有の豊かな資源と大きな可能性をもって柔軟に適応することが求められています。

町内の農業後継者や若年層の新規参入に限ることなく、強い意欲と優れた経営感覚を持つ多様な担い手の育成・確保を進めるとともに、それぞれの有する土地や自然環境、人材といった経営資源や能力を余すことなく発揮することにより、得意分野を伸ばしたり新たな分野を開拓するといった経営体の「個性」が光る多様な農業経営の展開を推進します。

#### ① 新規就農者等の育成・確保

活力ある地域農業の維持と更なる発展に向けて、次代を担う新規就農者や関連事業への従事者を育成・確保するため、関係機関・団体等と連携を図りながら、新規就農等の希望者に対する情報提供や研修等の充実強化を図ります。

別海町担い手支援協議会を核とした、別海町酪農研修牧場を通じた農協・民間出資型法人による新規就農者等への研修機会の提供等により多様な新規就農対策を推進するとともに、酪農生産基盤を支え、新規就農への入り口ともなる、酪農ヘルパー等の営農支援組織の人材確保等への支援を引き続き推進します。

また、離農などにより地域から重要な生産基盤である経営資源が失われることがないように、後継者不在農家や離農跡地の農地や施設の有効活用により、新規就農者及び後継者の円滑な経営開始や経営継承を推進します。新規就農時の初期投資を抑えるため、就農希望者等に対する各種支援対策や離農農場の既存施設を改修し、新規就農者に貸し付ける取組等を引き続き推進します。

さらに、地域と調和した安定的な営農活動と農村生活を営めるよう、新規就農トレーナー制度を活用し、新規参入者が抱える様々な問題を解決に導くための支援を行います。

ア 新規就農希望者が、円滑かつ確実に就農できるよう、地域の幅広い関係者が連携した受入体制づくりや広域で就農先を確保するための取組などを推進するとともに、新規就農者が経営に必要な農地、機械・施設、家畜、営農資金等の確保を支援するため、各種事業の活用を推進します。

イ 地域の農地や優れた技術を次世代の担い手に継承していくため、農地の集積・集約化や第三者、農業法人化などによる経営継承の取組を推進します。

また、地域の生乳生産量の維持拡大と併せて、経営管理の高度化、経営の多角化や6次産業化、担い手の育成などの役割を果たすことが期待される農協や民間企業等の共同出資等による法人の設立を支援します。

ウ 研修受入や新規就農者への指導・助言など、地域固有の知識・技術を有する北海道指導農業士・農業士が担う役割の強化と活動を促進します。

## ② 多様な経営体の育成

別海町の酪農は、ヨーロッパに匹敵する水準まで発展し、家族経営を基本とした専門的で大規模な酪農が営まれています。

今後とも、別海町の酪農が、安全・安心・良質な生乳を安定供給する日本有数の酪農地帯としての役割を高め、新たな価値を創造しながら発展していくため、それぞれの経営体が有する地域条件・経営条件や農業者の創意工夫を活かした多様な経営方針を尊重し、経営体の「個性」が光る多様な農業経営の展開を推進します。また、6次産業化に加え、これまでに見られなかった作物の生産が行われるなど、新たな取組が展開されていることから、消費者や実需者ニーズに対応した多様な品目の生産等の取組を推進します。

地域としては、豊富な土地資源を有する別海町の優位性を活かし、多様な経営体の育成と各々の体質強化を通じて、加速する国際化や高度化する消費者サイドのニーズなど農業をめぐる情勢変化に柔軟に対応できる「地域としての総合力」を高め、柔軟で足腰の強い農業地帯を目指します。

ア 農業経営体の大宗を占める家族経営の持続的な発展に向けて、労働負担の軽減を図るスマート農業の導入や地域の実情に即した営農システムの整備、低コスト生産につながる基本技術の徹底など、生産性の向上とゆとりある農業経営を実現する取組を推進します。

イ 労働負担の軽減や作業の効率化を図るため、ヘルパー、哺育・育成センター、コントラクター、TMRセンター、公共牧場など、家族経営を地域でサポートする多様な営農システムの確立と、その経営基盤の安定を図ります。

- ウ 草地基盤整備の推進と、土・草・牛の自然循環機能を活用した放牧技術の導入によって、飼料費の低減と労働の軽減を図り、輸入飼料に頼らない足腰の強い草地型酪農を推進します。
- エ 農家チーズなどの乳・畜産加工や販売、ファームイン（農泊）、ファームレストランなどのアグリビジネスによる経営の多角化を推進します。
- オ 地域農業を支える雇用人材を確保するため、他産業や異業種、他地域との連携による多様な人材や外国人の受入れに向けた取組を推進します。
- カ 消費者や実需者ニーズに対応した多様な品目の生産や出荷の安定化に向けた取組を推進します。

#### 町民の声（アンケート結果）

##### 【農業生産・経営に関する今後の主な取組】

- 研修牧場の充実など新規参入者の育成と確保 ●地域ブランドの創出
- 草地更新など生産基盤整備の円滑な実施
- コントラクター、TMRの地域支援体制の増強
- 乳業会社との提携など各種取組の推進 ●農協組織の体制・機能強化

##### 【今後力を入れて取り組むべき農業の持続的発展に関する施策】

- 地域の実情に応じた国産飼料の生産・利用拡大の促進
- 生産コスト低減・生産性向上の促進 ●力強く持続可能な農業構造の実現に向けた担い手の育成・確保 ●農地の確保及び適正利用・農業生産基盤の保全整備
- 需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化の推進

##### 【今後5年間の経営展開方向】

- 飼養管理・飼料生産費削減などによる低コスト経営
- 労働負担軽減によるゆとりある経営 ●自然環境に配慮した資源循環型の経営
- 草地基盤を生かした放牧などによる飼料自給型の経営 ●現状維持

## （2）農村：活力に満ち、心豊かに安心して住み続けられる地域づくり

別海町の農村が持つ豊かな自然環境や広大な土地空間を活かし、地域住民が快適でゆとりある生活を楽しむとともに、豊かな自然やこれまで培ってきた文化・風土・歴史などの魅力の再発見と地域文化の創造・保全・継承を通じて、町内外に開かれた「個性」溢れる地域づくりを推進します。

また、生活の場として農村の魅力や地位を一層高めていくため、少子高齢化に対応した保健・

医療・福祉などの社会サービスの充実、情報通信基盤の整備、さらに、農村ならではのゆとりある憩い空間の整備や保全など、誰もが安心して快適に暮らせる環境づくりを推進します。

さらに、エゾシカやヒグマなどの野生鳥獣による農業被害は深刻化しており、特に牧草等の粗飼料の食害や家畜被害などは、生産性の低下や営農意欲の減退を招いていることから、広域横断的な対策を講じるとともに、計画的に適正な個体群管理ための取組を推進します。

### ① 別海町の特色ある資源を活かした農村づくりの促進

農村地域では都市部に先駆けて人口減少・高齢化が進行しており、農業者の減少に伴う農業生産の減退やコミュニティの活力低下が懸念されています。さらに、農村が有する多面的機能の低下により、豊かな自然や伝統文化なども失われ、農村の地域社会そのものの維持が困難な事態となることも懸念されます。

そのため、地域農業を支える多様な人材が活躍できるよう、誰もが働きやすい環境づくりや、地域の潜在的な人材、外国人など多様な人材の受入に向けた取組を推進するとともに、地域をリードする女性農業者があらゆる活動に参画することができる環境づくりを推進します。

また、これまで農村の域外に流出していた経済的な価値を域内で循環させる地域内経済循環を進める中で、農村づくりへの住民の意欲を醸成し、農村の価値や魅力を活かした取組を進めることにより、地域住民にとってかけがえのない故郷となるだけでなく、町外の人にとっても魅力と個性が感じられる農村づくりを推進します。

ア 自然や景観、伝統文化、生産物などの農村地域の多様な資源を発掘し、それらを活用した農村づくりを支援するとともに、環境美化などのコミュニティ活動を推進します。

イ 別海町の豊かな地域資源を最大限活用した新たな価値の創出や農業関連産業の導入等を通じて、雇用の確保と所得の向上を促進します。

ウ 地域住民が主体となった持続的な取組を推進するため、農村づくりを後押しする役割を担う人材育成を推進します。

エ 農的な暮らしに憧れる都市住民の移住や、季節移住の受入れによる集落人口の増加と活性化を促進します。

オ 女性農業者の経営管理能力の向上や農業生産、女性同士のネットワークの強化等に向けた情報提供などを推進します。また、男女平等参画に向けた意識啓発や各種研修会の開催などを通じ、経営や社会活動に参画しやすい環境をつくとともに、女性農業者が一層活躍できる環境整備を推進します(家族経営協定への理解促進と締結の推進など)。

## ② 安全で快適なゆとりある生活環境の整備

営農飲雑用水や農業集落排水施設、農道などの農村インフラの維持・強化や情報通信環境の整備を通じて、農村ならではのゆとりある生活空間や安全で快適な生活環境の整備を推進します。また、地域の防災力を強化する総合的な防災・減災対策を推進するとともに、野生鳥獣の被害対策に取り組み、安心して暮らせる生活の場づくりを推進します。

ア 農村地域の快適性と安全性の確保に向けて集落排水施設などの生活環境整備や、農地及び農業水利施設の適切な保全と防災対策を推進します。

イ 地域の実情や特性に即した農業生産基盤及び農村環境の整備とDX（デジタル・トランスフォーメーション）を総合的に推進します。

ウ 誰もが安心して暮らし続けることができるよう医療や保健・福祉サービスの充実を図るため、在宅生活を支える福祉・農業団体との連携による介護サービスの充実、効率的な医療提供体制の整備などを推進します。

エ エゾシカなどの野生鳥獣被害に対し、計画的な個体群管理、ハンターの育成・確保、捕獲した野生鳥獣の有効活用など、総合的な被害防止対策を推進します。

### 町民の声（アンケート結果）

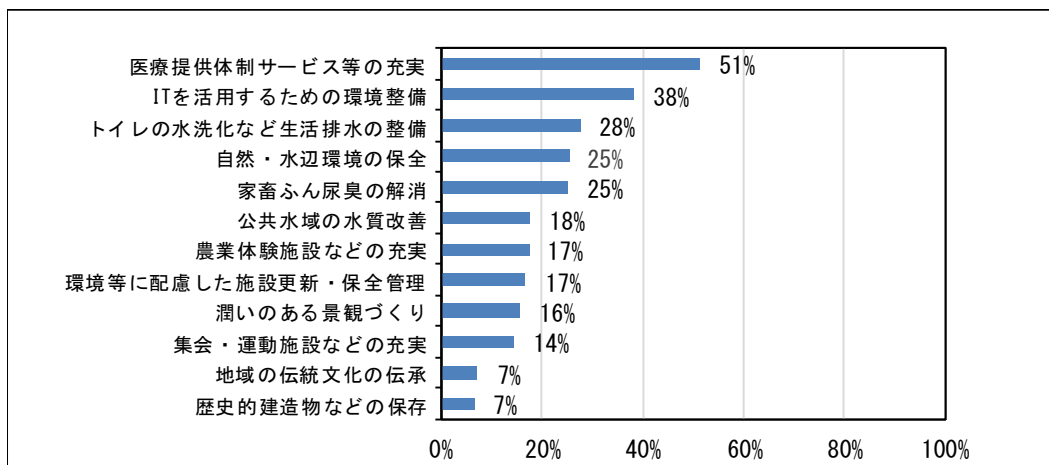
#### 【野生鳥獣による被害】

- エゾシカによる牧草の食害
- カラスによる牛への傷害
- 野生動物による家畜伝染病の伝播

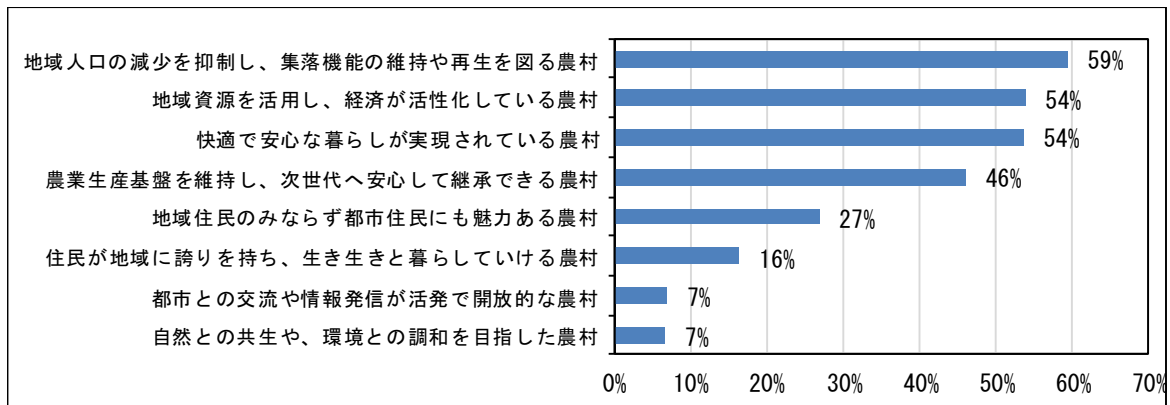
#### 【野生鳥獣被害に対する今後の必要な対応策】

- 広域・横断的な鳥獣被害対策
- 地域における指導者や猟師の育成・確保
- 牧草地や畜舎への侵入防止策
- 計画的な個体数調整

### 生活環境に関する優先課題（アンケート結果）



魅力ある農村づくりに向けた別海町の方向性（アンケート結果）



## 2（3）消費者との「信頼」を築く ～確かな評価と高い信頼～



農業：消費者ニーズに応える安全・安心・良質な食料の安定供給

農村：地域資源と創意工夫を活かした幅広い連携や地域交流活動の推進

### （1）農業：消費者ニーズに応える安全・安心・良質な生産活動の推進

食や農業に対する消費者の関心がかつてないほど高まる中、豊富な土地資源を有する別海町の優位性を活かして「安全」「おいしさ」「地域ブランド」といった社会や消費サイドのニーズに応える生産活動を目指すとともに、日本有数の酪農地帯として先行きが不透明な情勢の変化にも柔軟に対応できる生産構造を保持することが重要です。

そのため、冷涼な気候や豊富な土地資源など別海町の特色ある「営農環境」を活用し、河川などの「自然環境」に配慮した営農規模・手法で、農場の「飼養衛生環境」を適正に管理するといった「環境」をキーワードとした生産活動により、消費者が求める「安全」「良質」「自然と調和した」農産物を適正価格で安定的に供給することを目指します。

常に消費者の声に耳を傾けて多様なニーズを捉えるとともに、期待に応えるべく意欲的に生産活動を展開し、消費者から確かな評価と高い信頼を得て「べつかい」ブランドを確立します。

また、食の多様化、牛乳・乳製品の有する健康機能への評価の高まり、インバウンドといった増加要素がある一方、人口減少、少子高齢化の進展といった減少要素があることから、需給ギャップの解消に向けて牛乳・乳製品をはじめとした別海町産農産物の消費拡大の取組を推進します。

### ① 食の安全・安心の確保に向けた取組の推進

生産地・生産者として国民の健康・生命維持の基本である食料生産を担っているという責務を自覚し、安全な農産物の安定供給という原点に立ち返って、食の安全確保や消費者の安心につながる取組を推進します。

- ア 生産者や農業団体など、食料生産の最前線における食の安全・安心の確保に向けた自主的な取組を推進します。
- イ ポジティブリスト制度に基づく農薬・動物用医薬品などの適正使用を徹底します。
- ウ 安全な飼料の適正給与や飼養衛生管理の徹底と、その結果としての乳質改善を推進します。
- エ 飼養衛生管理基準や農業環境規範の遵守に向けた意識啓発活動を推進します。
- オ 生産情報公表JAS規格の認定取得など、消費者の安全・安心志向に対応した生産・流通に向けて、食品の生産情報を生産者が正確に記録・保管・公表する取組を推進します。
- カ 食品安全、環境保全、労働安全等の持続性を確保するための農業生産工程管理（GAP）の取組を推進します。

### ② 消費者のニーズや期待に応える農業生産の推進

生乳をはじめとした別海町産の農産物の持続的な供給を確保していくためには、生産地・生産者が消費者目線で安全・良質な農産物の生産と供給に努める一方で、消費者には生産などの実態の理解を通じ、日々の購買行動によって支えてもらうことが重要です。

このため、消費者、生産者・農業団体、食品産業、行政などがそれぞれ情報を持ち寄り、相互理解と連携の強化を図るとともに、消費者にとって魅力や価値のある農業の生業、製品づくりへの挑戦を推進します。

- ア 常に消費者を意識し、消費者目線で生産環境・生産活動・生産物を客観的に評価する生産者自らの意識転換を推進します。
- イ 消費者にとって魅力と信頼を兼ね備えた生産地づくりに向け、生産者と消費者が交流し意見交換できる場づくりなど、相互の理解と信頼を高める取組を推進します。
- ウ 土・草・牛の調和がとれた「自然循環型酪農」や飼料自給率が高い「草地型酪農」など、地域資源を最大限に活用するとともに、消費者からの期待が高い「安全」「良質」「安定」「環境保全」などに応える農業を推進します。

### ③ 別海町農産物の付加価値を高める加工や販売の推進

別海町農産物に対する消費者の認識と信頼を確かなものにするため、大手乳業メーカー等を通じた安定的な流通・販売のほか、地域のオリジナリティ溢れる加工・販売の取組を町ぐ

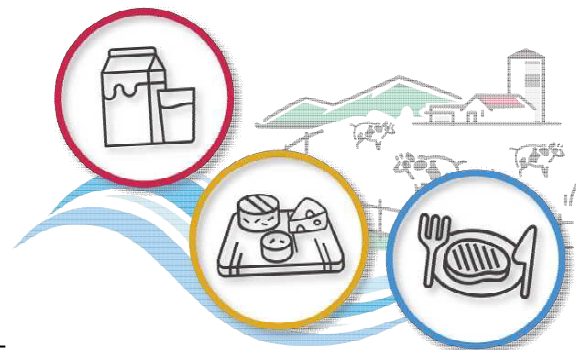
るみで積極的に進めることにより、別海町農産物の付加価値を高め、他地域との差別化を図ります。

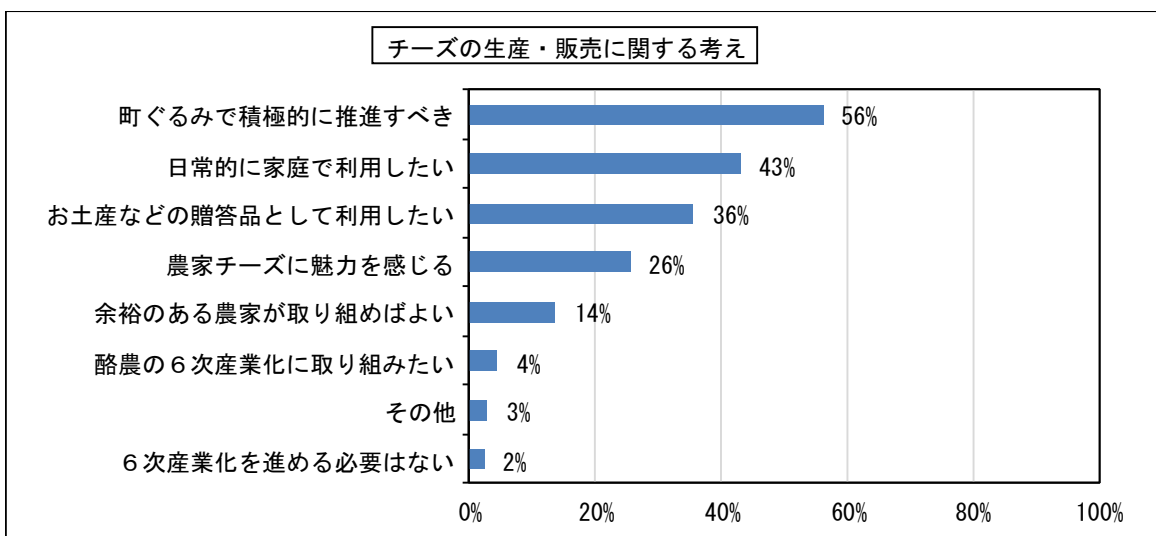
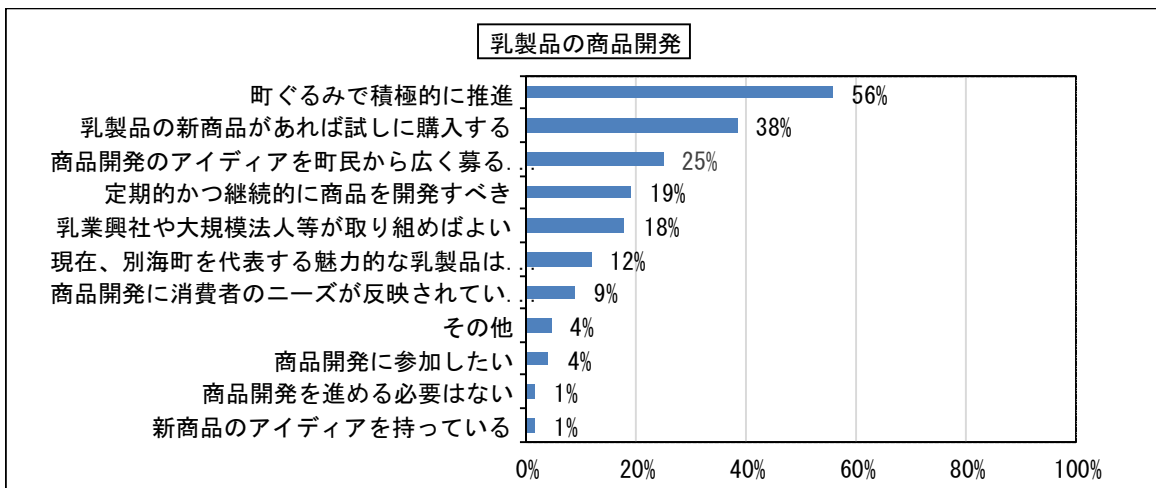
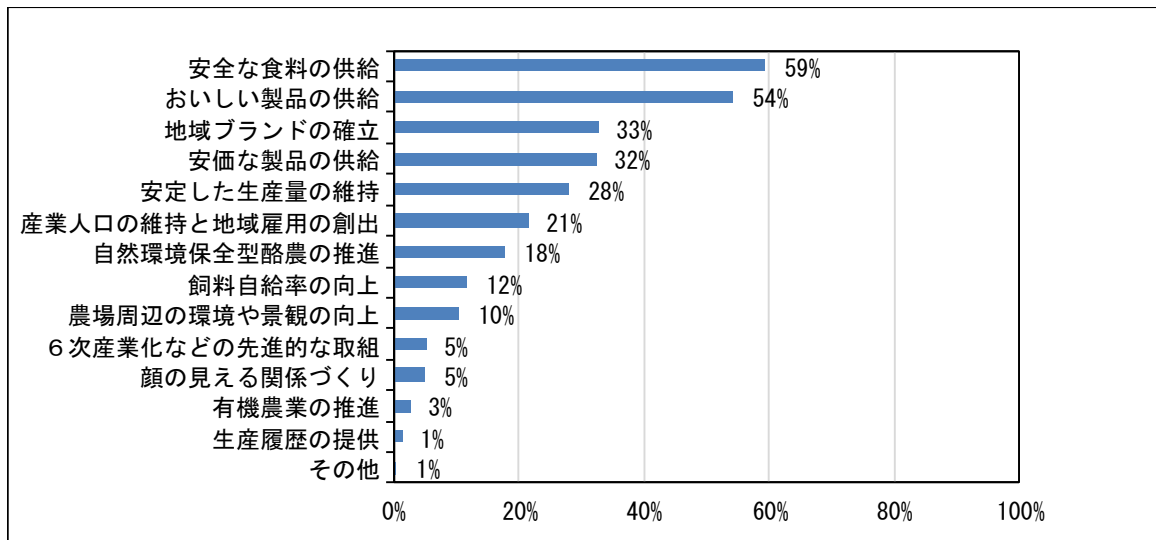
- ア 消費者にとって魅力ある新たな製品開発を積極的に進めるなど、別海町産農産物の販路拡大や地域のブランド化に向けた取組を推進します。
- イ 別海町農産物の差別化や高付加価値化に向けた加工・販売戦略の構築に向けた取組を推進します。
- ウ 農業者自らが生産した農産物の加工や販売活動を推進します。
- エ 別海町農産物の魅力及び生産者の努力や想いを消費者に直接伝える取組や別海町産農産物の利用を積極的に進める取組など、需要拡大に向けた取組を推進します。

#### ④ 地域ブランドの確立

「生乳生産日本一の町」として別海町農産物の魅力・地位・知名度などの更なる向上を目指し、安全で良質な農産物の生産はもとより、引き続き、豊かな自然環境と調和した営農に堅実に取り組み、消費者からの信頼と支持を得て「べつかい」ブランドを確立していきます。

- ア 消費者、生産者・農業団体、乳業メーカーをはじめとした食品産業、行政などが連携した地域ぐるみの「べつかい」ブランドづくりを推進します。
- イ 環境と調和した営農や自然・草地・牛が成す牧歌的な風景といった別海町農産物の物語（付加価値）を創り出す取組を推進します。
- ウ 別海町農産物の安全性やおいしさのみならず、生産の背景（生産者、生産環境、生産方法など）を消費者に伝えるPR活動を実施します。
- エ 北海道産食材にこだわり安全で優れた個性のある食品を認証する「道産食品独自認証制度」の活用による地域ブランドづくりを推進します。
- オ 地域ブランド名の地域団体商標登録に向けた町外・道外への販売促進や、ふるさと納税返礼品を活用するなど幅広い周知活動を推進します。





## (2) 農村：地域資源と創意工夫を活かした幅広い連携や地域交流活動の推進

農村は、国民に不可欠な食料を安定供給する基盤であるとともに、国土の保全や水源の涵養などの多面的な機能の発揮の場でもあることから、こうした役割が十分に発揮されるよう、農村の振興を図ることが必要です。

しかし、農村、とりわけ中山間地域等においては、我が国が直面する高齢化や人口減少が都市部に先駆けて進行しており、農業者の減少に伴い、集落機能や地域資源の維持にも影響が生じるとともに、地域の特性に応じた付加価値の高い農産物の生産・加工・販売等の活動が困難になるなど厳しい状況にあります。これに併せ、農村内の非農業者も、今後大幅な減少が見込まれることから、農村の地域社会の維持が困難となる事態も懸念されています。

魅力ある農村づくりの取組を進めていくためには、家族経営や法人経営など経営形態が異なる農業者、さらに、地域住民や農村外の多様な人材が、年齢や性別等にかかわらず幅広く参画し、その有する能力等を最大限発揮していくことも重要です。

また、農村関係人口の拡大に当たっては、農村への関心や関わりを持った者が、都市部にいながら農産物の購入などで農村に関わる形から、実際に農村に拠点を移す形に至るまで、様々な方法を通じて農村への関わりを深めていき、農村の支えとなる人材の裾野を拡大する必要があります。

こうした観点に立ち、中山間地域の農業・農村が果たす役割の重要性にも考慮しつつ、地域コミュニティ機能の発揮等による農地等の地域資源の維持・継承や住みやすい生活環境の実現、農村における雇用の確保と所得の向上、都市と農村との交流や都市住民の移住・定住の促進等の取組を「別海町デジタル田園都市国家構想総合戦略」等を踏まえ、関係団体と連携の上、総合的に推進します。

### ① 魅力ある食づくりと「食」を通じた消費者と生産者の関係強化

地場産品を最大限に活かした生産地ならではの魅力ある食づくりや、「別海町食育・地産地消推進計画」（令和5年3月策定）に基づき、食育・地産地消の推進を効果的に図り、「食」と「農」をつなぐ地域に根ざした取組を通じて、地場産品や地域産業への町民の理解や誇りを醸成するとともに、町内外の消費者と生産者との結びつきの強化に向けた取組を推進します。

ア 地域で受け継がれてきた食文化の伝承、地場産品に関する知識の習得や、地場産品を選択する意識の啓発に向けた、学校・家庭・地域などにおける総合的な「食育」を推進します。（教育機関と連携した学校給食での地場産品利用、生産者による食育授業の実施、別海町酪農研修牧場を活用した酪農体験学習の実施など）

イ 町民自らが地域の基幹産業を守り育て、「食」を通じて地域への愛着と誇りを醸成する「地産地消」や、生産地ならではの魅力ある「食づくり」を推進します。

（地場産品の魅力を最大限に引き出したご当地グルメの開発など）

- ウ 栄養価や機能性など農産物に関する正しい情報・知識を周知するとともに、別海町産農産物の生産・供給にまつわる物語を町内外へ発信する取組を推進します。
- エ 町内の乳製品加工体験施設・農漁村加工体験施設を中心として来訪者・都市住民などへ加工体験を提供する取組を推進します。
- オ 農家チーズ工房、農泊、ファームレストランなどの新たなアグリビジネスの展開による、「食」を介在した生産者との交流機会の創出を促進します。
- カ 食育の推進を通じて、食料・農業・農村に関する理解を深めるだけでなく、食料の持続的な供給に寄与する行動変容につなげるよう、様々な施策間の連携を図りながら、効果的な理解醸成に努めます。
- キ 食品ロスの削減に向けた取組を国・道・関係団体と連携し推進します。

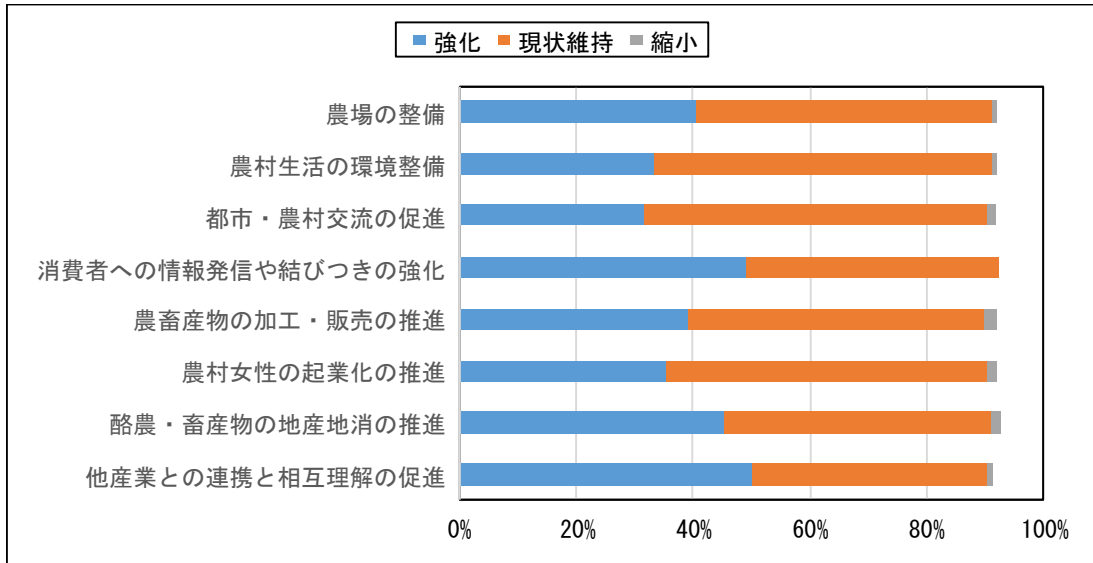
## ② 都市・農村交流活動の促進

優れた自然景観や農業生産活動とのふれあいを求める都市住民のニーズに対し、農業以外の他産業とも連携しながら、農村ツーリズムなど地域資源を活用した事業活動を促進し、定住や二地域居住、関係人口の増加に向けた取組を推進します。

また、WEBサイトやSNS等による情報発信等を通じ、別海町のファンを創出します。

- ア 農業者を含む多様な主体が地域ぐるみで連携して、食・滞在・体験などを提供する農村ツーリズムを推進します。
- イ 都市が求める情報の発信と、積極的なPR活動を展開します。
- ウ 都市・農村交流活動の核となる人材やネットワーク組織の育成・強化や、観光産業・水産業等の関連産業や地域活動グループなどとの連携を強化します。
- エ 農村ツーリズム等を通じて訪問した都市住民が、引き続き、別海町への関心を持ち、様々な形で関わる関係人口の裾野を広げる取組を推進します。

農村づくり、消費者・他産業との連携や交流に関する今後の取組方向（アンケート結果）



都市・農村交流に関する取組の必要性（アンケート結果）

